

皮膚科における光線療法（紫外線療法）

皮膚における過剰な免疫反応を抑える効果が、紫外線にはあります。この性質を安全に利用した治療法が、光線療法（紫外線療法）です。薬物療法で十分な効果が得られないときの治療法として、一つの選択肢となっています。

免疫機能が皮膚のトラブルの原因に

皮膚科の治療においては、患部への塗り薬や、痒みや症状を抑えるための飲み薬がおもに使用されます。しかし症状によっては、これらの薬物療法で、皮膚の状態が十分に改善されないことがあります。とくに、アトピー性皮膚炎や乾癬といった、免疫の働きに異常があると考えられる皮膚病では、こうしたケースが良く見られます。

そうしたときに、追加的な治療法として、「光線療法（紫外線療法）」が検討されます。ちなみに、皮膚科における光線療法は、薬物療法と同時進行で行われます。

光線療法は紫外線を使う

光線療法は、（顔の一部を除く）身体全体や症状のある部分のみに、紫外線を照射することで行います。

なぜ、紫外線が使われるかというと、紫外線には皮膚における過剰な免疫反応を抑える効果があるからです。このため、アトピー性皮膚炎や乾癬、尋常性白斑といった、免疫の異常が関係している皮膚疾患に用いられます。

ところで、「紫外線は危険」という認識を持たれている方もいらっしゃるかもしれません。

光線療法で使う紫外線では、人体に悪影響を及ぼす波長はカットされています。一時的に紫外線を照射した部位に赤味が起こることはありますが、安心して治療を受けることができます。



光線療法の種類

紫外線には、UVAとUVBとUVCの三種類があります。このうちUVCは使用されていません。

光線療法として以前は、UVAを使用した「PUVA療法」が多く行われていました。PUVA療法の場合、治療の際に光に対する感受性を高める薬物（ソラレン）を使用します。このため、治療期間中はできる限り日光に当たらないようにする必要があります。

光線療法においては、2000年代以降、UVBを使用した「ナローバンドUVB療法」が主流になりました。

ナローバンドUVB療法では、皮膚疾患に効果的な紫外線のなかでも、さらに狭い波長を利用します。このため、短時間の照射で、非常に高い効果が得られます。

ナローバンドUVB療法は、三面鏡のような機器のまえに裸になって立ち、全身に紫外線を照射する方法です。

現在では、UVBを患部のみに集中して照射する「エキシマライト」という装置を使った光線療法の普及も進んでいます。

健康保険も適用されます

ナローバンドUVA療法やエキシマライトを使った光線療法では、紫外線の照射を受けた部位は温かさを感じる程度で、痛みが生じる心配はありません。紫外線の照射時間は、症状や部位の数によって変わってきますが、おおむね数分程度です。週に1～2回程度の通院が望ましいとされています。

なお、アトピー性皮膚炎、感染、尋常性白斑、掌蹠膿疱症、類乾癬、慢性苔癬状皰糠疹、悪性リンパ腫、菌状息肉症に対する光線療法は、健康保険が適用されます（2020年4月からは、円形脱毛症に対しても健康保険が適用されるようになりました）。



すぐに役立つ暮らしの健康情報 こんにちは 2020年10月号より転載